

空 楽 々

「
555
」

2015

冬



2016年度卒業制作へ向けて

2015年度の卒業制作着手生は卒業制作・最終審査を前に最後の追い込みをしている真っ最中ですが、1月は2016年度の卒業制作への仮着手申請の受け付け期間となっています。今回は学生生活の集大成となる卒業制作に向けて、ちょっとおさらいをしてみましょう。



卒業制作のおさらい

一年をかけて進めていく卒業制作のカリキュラムは、前期2回、後期4回の計6回のスクーリングと4年次の二つのテキスト課題から構成されています。

スクーリングについては、一つひとつのスクーリングが終了するたびに評価判定が出るのではなく、「卒業制作4」で行われる中間審査、および「卒業制作6」で行われる最終審査の可否結果を経て、一括の評価判定が行われます。

つまり、最終審査で提示する作品や企画だけで「卒業制作」科目の可否が判定される訳ではなく、卒業制作期間を通しての取り組み方・アウトプットの状況などの経過を踏まえて、総合的に判断したうえでの可否判定となります。加えて、4年次の二つのテキスト課題の提出タイミングはスクーリングと連動しているため、卒業制作自体の進捗管理とともに、テキスト課題制作についてもスケジュール管理に気をつける必要があります。

また、卒業制作展への展示準備と撤収作業も原則全員参加となっていますので、初回スクーリングである「卒業制作1」の事前課題着手から、卒業制作展の後片付けが終わり、解散するまでが卒業制作期間と言うことになります。

いずれにしろ、卒業制作は、学生生活の集大成となりますので、悔いの無い一年を過ごして頂きたいと思います。

卒業制作は通常のスクーリングやテキスト課題とは違い、自分で課題や問題点を見つけ、それを解決するための自分の考えを眼に見える形としてアウトプットして提示しなければなりません。今までのように与えられた課題をクリアするのは違います。

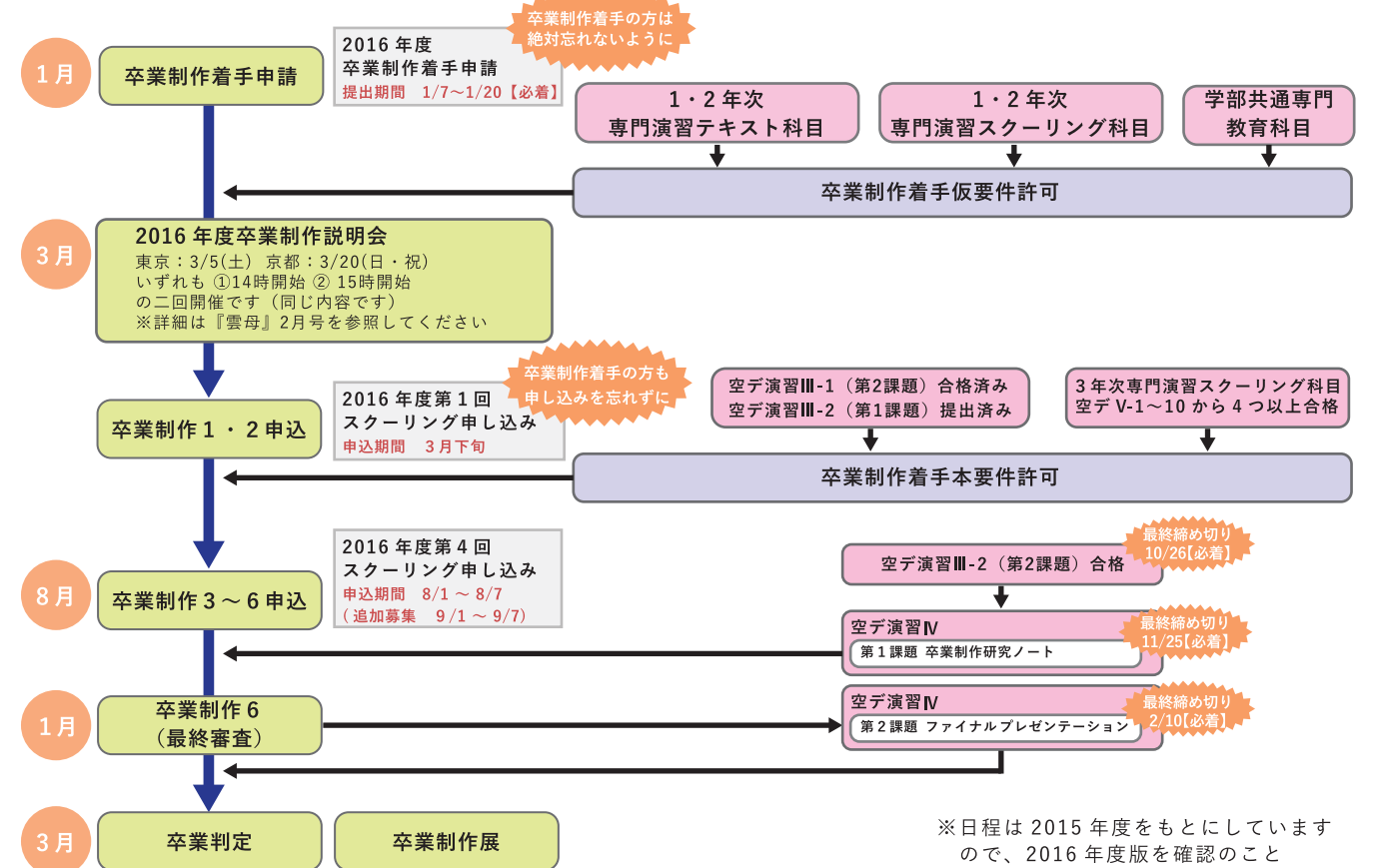
テーマやコンセプトを探り、形態を思考し、その形態が適切なモノかを検証して、更にブラッシュアップしていくというプロセスを繰り返していきます。あるいは、プレゼンテーションを行うために、見えないコトに見える化する作業も必要になるかもしれません。

なので、「卒業制作2」（テーマ審査）でテーマ・コンセプトが一旦確定したら、「卒業制作3」以降は何度も試作を重ねて精度をあげていくのが望ましいです。

途中で、テーマ・コンセプトがぶれたり、最適なアウトプットが何なのか見えなくなったりするかもしれませんが、焦らず、じっくりと、そして楽しんで卒業制作期間を過ごしてください。

卒業制作と他科目との関係

先に述べたように卒業制作の着手中にはその他の科目の提出期限に注意する必要があります。また、スクーリング申し込み期間など申請期日にも注意しましょう。



卒業制作の一コマ



今年の東京懇談会は「卒業制作5」の開催日でしたが、この日は卒業制作として「カムカムプロジェクト」という活動を進めている在校生の片岡さんのフードトラックが外苑キャンパスの中庭に設置されました。

このフードトラックからプロジェクトの食事メニューの一つを提供し、空デ教員・卒業制作着手生だけでなく、懇親会に参加された大野木副学長や他コースの学生に試食いただき頂き、そのアンケート結果を得ることで、今後の卒業制作へのフィードバックしようとしています。

卒業制作FAQ

Q: 卒業制作では何をしても良いのでしょうか？
A: 基本的に何をしても構いませんが、単に自分がしたいことをするのではなく、社会に求められていること・社会に提示したいことであることが必要となります。自己満足で終わらないようにしましょう。

Q: 卒業制作の最終的なアウトプットは作品でなければならないのでしょうか？
A: 必ずしも作品である必要はありません。卒業制作の内容によってはプロジェクトの報告書や研究レポートという形が最終成果物となる場合もあります。

Q: 卒業制作で何をしたいのか、今のところ分かっていません。何をとっかかりにすれば良いでしょうか？
A: 卒業制作は「自由テーマ」と「合格済み科目課題からの発展」という二つの選択肢がありますので、過去に着手した課題の中で気になったことや改善したいことなどを見つけてみるのも一つの方法です。以前と視点を変えて見てみると新しいテーマが見つかるかもしれません。

Q: 卒業制作で制作する作品は全て自分で制作しなければならないのでしょうか？
A: 印刷作業だけを業者さんに依頼するなど、作業の一部を外部の業者さんへ制作を依頼することは構いませんが、図面等で指示するなど、業者さんに丸投げとしないようにしましょう。

二〇一五年度
秋のエキスカ
ーション

秋のエキスカーション・関東
開催日：2015年10月25日（土）

関東編は東京都小金井市にある「江戸東京たてもの園」（以下たてもの園）での建物見学となりました。

今回も昨年と同様、芸術教養学科との合同開催となりました。野村先生を含む芸術教養学科の参加者に対して空デ参加者が三名と少なかったのが残念でしたが、晴天の下でたてもの園での一日を過ごしました。

東小金井駅に集合した一行は、たてもの園の学芸員の方からのアドバイスもあり、「武蔵野と言えばスタジオジブリ」（！？）ということで、直接たてもの園に向かわずにちょっと遠回り。スタジオやスタジオスタッフのために設立された保育園「3匹の熊の家」などを前を通ってからたてもの園に向かいました。

このたてもの園は、都内両国にある東京都江戸東京博物館の分館で、東京都内各地から移築した江戸時代から昭和初期までの文化的価値の高い歴史的建造物を修復・保存して展示する野外博物館で、都立小金井公園内に有ります。

まずはビジターセンター内の教室で学芸員の田中裕二さん（某お笑いコンビの方と同性同名）による、たてもの園のレクチャーから。田中さんは東京藝術学舎の講座で講師を担当された際には、たてもの園にある「三井八郎右衛門邸」を取り上げられたそうで、それを見所の一つとして紹介していただきました。

ここで、見所満載な「たてもの園」ということで、川合先生から参加した学生の皆さんへ、たてもの園の建物の中から「マイベスト建物」を選出して、その結果を田中さんへ提示したいとの提案がありました。田中さんも、どの建物が選ばれるか、興味深いとのこと。さて、どんな結果が出るか！？

たてもの園内の見学では、最初に小出邸と前川國男邸についての春日部先生による解説があり、その視点を踏まえながら実際に建物を見ていきました。この二つの個人邸を設計した堀口捨己と前川國男は、学部共通専門科目の「生活空間デザイン史」のテキスト『近代日本の作家たち（建築をめぐる空間表現）』で紹介されています。それらを皆で見学した後は、自由行動となりました。

再集合後は、ビジターセンターで、各自選択した「マイベスト建物」の発表を行いました。

個人邸中心の西ゾーン、下町を再現した東ゾーンと見どころ満載で選出される建物がバラバラになるのではと思っていましたが、第一位となったのは「田園調布の家」でした。パネルと皆さんからのコメントを田中さんへお渡ししてたてもの園を後にしたのでした。

- 1：スタジオジブリの保育園「3匹の熊の家」
- 2：日本におけるモダニズム運動を主導した建築家堀口捨己による小出邸
- 3：小出邸の窓のデザインにモンドリアンの抽象画を感じます
- 4：前川國男邸
- 5～6：「マイベスト建築」の結果を川合先生が学芸員の田中さんへ提示中
- 7：「マイベスト建築」に選ばれた「田園調布の家」（大川邸）

- 江戸東京たてもの園
東京都小金井市桜町3-7-1
- スタジオジブリ
東京都小金井市梶野町1-4-25





エクスカッション・関西 開催日：2015年11月3日（火）

関西編は徒歩での京都市内巡りとなりました。京都駅に集合した一行は、烏丸通りの裏通りを上がり、仏光寺にある本学・通学部の空間演出デザイン学科教授のナガオカケンメイさんプロデュースのD&DEPARTMENT KYOTO by 京都造形芸術大学内の店舗やギャラリースペースの展示を観た後、ランチなどをいただきながら時間を過ごしました。その後は高辻通りから鴨川を渡り、宮川町を経由し松原通りと巡って、看板コンペを開催したあじき路地に到着しました。

あじき路地では当日のお昼にNHKテレビの生放送があり、撮影中は路地内に入れないというアクシデントがありましたが、番組内で看板が紹介され、全国デビューを果たしました。放送終了したあとは安食さん（おかあさん）から、あじき路地の成り立ちやアーティスト支援の思いなどを伺いました。

祇園四条にあるコーヒー＆ラウンジ「紅ゆき」さんでお茶の時間を過ごした後、建仁寺の境内を経由して花見小路に出て、花見小路通に有る築100年の2階建て町家を再生させたライカ京都店を巡ってみました。

この日の京都は晴天の天気予報だったのに、私たちがあじき路地に着いた後、あじき路地の周囲の空が雲に覆われて、終いには雨（ほんのお湿り程度ですが）が降り出すという出来事がありました。雨男伝説が続きます（笑）



- 1：あじき路地「日曜日のパン屋さん」店内をお借りして安食さんからお話を伺いました
- 2：D&DEPARTMENT KYOTO by 京都造形芸術大学のショップ＆ギャラリーへ
- 3：松原橋を歩いて鴨川を渡ります
- 4：あじき路地の看板を寺尾先生が解説中
- 5：観光客が行き交う建仁寺の境内を進む一行

- D&DEPARTMENT KYOTO by 京都造形芸術大学
京都府京都市下京区新開町397
- 京都町家 あじき路地
京都府京都市東山区大黒町通松原下ル2丁目山城町284

Kurara
Topics

2015年 秋・冬の学内イベントから





1：講義開始前の春日部先生のイントロダクション
2～3：講義中の飯石さん

空間演出デザインコース特別講義2015 開催日：2015年11月21日（土） 講師：飯石藍

11月21日は東京外苑キャンパスにて空デ特別講義が開催されました。今回は、23区で初めて公道を活用したグリーン大通りでのマルシェ「GRREN BLVD MARKET」の企画や地元豊島区で街の面白い人を掘り起こし紹介するトークイベント「としま会議」の運営などに関わっている飯石藍さんを迎えての講義となりました。

飯石さんが移り住んだ豊島区が「消滅可能都市ランキング」にランクインした自治体のうち、都内唯一の自治体となったことから、豊島区の置かれた状況に危機感を感じたのが「としま会議」の開催のきっかけになり、その「としま会議」に春日部幹先生の参加を依頼されたことが今回の講義に結びついたそうです。

豊島区は空家率が高いとのことですが、そのような空家などの「箱」はすでに存在しており、新たな箱を作る必要は無い状況で、その箱をどうするか・どう活用するかを「人から考えてみる」のが活動の根底にあるとのこと。空

間を演出する際に誰かの顔が見えているか、という飯石さんからの問いかけは心に響きました。

人と人との繋がりの中から新しいコトが生まれることと、使い手がカスタマイズ・バージョンアップしていくなど、使い手に委ねていくことによる自由な発想が生まれることを大切にしながら空間作りをされている飯石さんの活動や想いが聴講の学生へ伝わったのか、講義後には学生から多くの質問がありました。

飯石藍さんのプロフィール

行政向けのコンサルタント、企業 CSR の企画や全国の NPO の経営支援、企業とのコラボレート推進等を手がけるベンチャー企業を経て、走って食べて楽しむ馬拉ソン「東北風土馬拉ソン」、公共施設・公共空間の活用についてのポータルサイト「公共 R 不動産」、空き物件の活用を考える実践型スクール「リノベーションスクール」の全国展開支援等に関わるなど、暮らしを豊かにするプロジェクトの「伴走者」として様々なプロジェクトの企画運営を手がけている。

学習会報告 「時間と空間のを見つけかたと使い方—写経的ドローイングを学ぶ」

開催日：2015年11月29日（日）



1：制作開始前のレクチャー。パワポ資料もバッチリです!?
2：制作中の学生へアドバイス中の田村先生
3：皆で作品の講評会。ここでも田村先生から熱心な(?)アドバイス

●学習会の写真提供いただいた沖さん、ご協力ありがとうございました。



すっかりと秋が深まった11月29日に京都瓜生山キャンパスにて京都外苑おもてなし学習会による学習会が開催されました。

この学習会では、藝術学舎の人気講座である田村蘊先生による「写経的ドローイング」に取り組みました。

一つひとつの点を写経をするかのように積み重ねてドローイングを行うことで、普段使いの水性ボールペンとスケッチブック、そして周囲にある（あるいは落ちている）素材だけで「十分遊べ」、しかも「立派なアート作品になる」ことを体感出来たようです。



東京懇親会 開催日：2015年12月12日（土）

12月12日には、東京外苑キャンパスで東京懇親会が開催されました。

この日は、夏に実施された「日本の手ぬぐいデザイン手ぬぐいコンペ」の原画展の開催日となっており、外苑キャンパスの1階・2階に原画が展示されるとともに、入賞作品が実際の手ぬぐいとなって、ロビーの吹き抜けという空間を惜しげ無く使った形で展示されていました。

今回の懇親会は、第一部と第二部の二部構成となっており、第一部では尾池学長による特別講義が開催されました。また、第二部では本学卒業生による和太鼓の演奏と立食パーティーが行われました。ともに大勢の通信の在校生・卒業生が参加し、盛況となりました。今回は、空デからは通信教育部長の上田篤先生の他に、教員では当日「卒業制作」を担当していた田村蘊先生と川合健太先生が参加されました。また、スクーリング中の卒業制作着手生や在校生・卒業生も参加し交流を深めていました。

第二部の冒頭で行われた和太鼓（和太鼓チーム貫惠）の演奏は、通信生が直に聴く機会は今まで入学式と卒業式しかなかったため、東京では貴重な経験となったかもしれません。

また、大野木副学長が今回初めて東京懇談会に参加することとで乾杯の発声をいただきましたが、その際に来年は乾きものメインの食事内容を改善したい旨のコメントがあり、会場内の学生を湧かせていました。

今回、尾池学長が参加されていることから、立食パーティーでは尾池学長の故郷である高知県の特産品も供されていました。

大学・大学院の通信生と教員が一堂に会した宴もあっという間に時間が過ぎ、上田先生の一本締めによる中締めのもと、それぞれのコースでの二次会へ散開したのでした。

- 1：学長・副学長・通信教育部長の三役が東京懇談会に揃い踏み!!
- 2：ロビーの吹き抜けでは手ぬぐいの入賞作品が展示されました
- 3：一階と二階では原画展が開催されていました
- 4：和太鼓のパワフルな演奏
- 5：大野木副学長による乾杯の挨拶。来年度は豪華メニューとなるか!?
- 6：教員と学生との歓談
- 7：二次会も皆で盛り上がりました!!





1



2



3



4

- 1：在校生の内藤さんによる乾杯!!
- 2～4：教員と学生との交流風景
- 5：木工家でもある川端さんからの在校生への賞品授与
- 6：モデラーの花房さん（卒業生）から力作が贈られました
- 7：北村さん（卒業生）が寺尾先生の作品をゲット!!
- 8：ジャンケン大会で本気を出す面々（教員含む...）
- 9：夏の表彰式で渡せなかった「あじき路地」コンペの賞品を伊藤さん（卒業生）へ
- 10：そして俳聖(!?)川合先生の俳句で今年も締めました!!
- 11：全員での記念撮影の仕切り中



空間演出デザインコース大忘年会 開催日：2015年12月19日（土）

昨年に引き続き、12月に在校生主催の「空間演出デザインコース大忘年会」が京都市左京区元田中の「天寅」で開催されました。この日の参加者は在校生・卒業生・教員含めて約70名という大所帯で、田村先生、寺尾先生、出口先生、伊達先生、宮地先生に加えて、昨年は同日に東京懇親会が開催されていたために参加できなかった上田先生、川合先生も参加し、コース専任教員が勢揃いとなりました。

宴の中では昨年実施した名札コンテストが行われ、教員・在校生で活躍されている4人の方々、教員で版画家でもある出口春菜先生からは版画が、在校生で木工家の川端健夫さんからは木製の器が、同じく在校生でグラフィックデザイナーの西田有輝さんからは季刊発行されている『微花』のバックナンバーが、そして卒業生でモデラーの花房澄夫さんからは風鈴が入賞作品への賞品として学生へ贈呈されました。また、卒業生の花房さんと寺尾先生から特別プレゼント(!?)が提供されたことから参加者全員でのジャンケン大会がスタート!! 教員の立場を忘れたのか、上田先生が本気モードに突入して参加者大盛り上がりのひとときとなりました。

開催までの調整を頂いた幹事さんの方々、そして師走の忙しい中に足を運んで頂いた在校生・卒業生の皆さん、楽しい時間をありがとうございました。



5



6



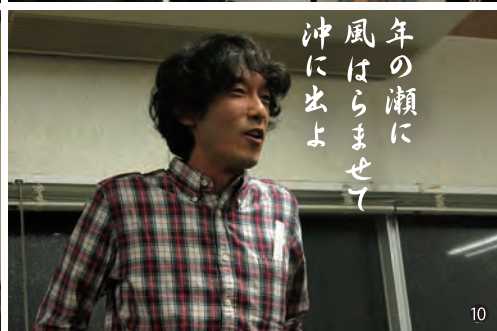
7



8



9

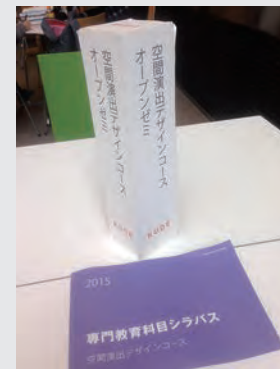


10

空楽々 編集室

Kurara Editor's Room

KUDEオープンゼミ



オープンゼミでは、履修方法やテキスト科目、その他なんでも相談を受け付けています。気軽に相談に来てください。

■京都

日時：2016年1月16日（土）17：00～19：00
2016年2月6日（土）13：00～15：00

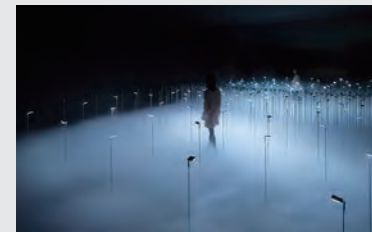
会場：瓜生山キャンパス人間館1階ラウンジ
担当教員：上田篤、寺尾文秀、他（予定）

■東京

日時：2016年2月13日（土）17：00～19：00
会場：東京外苑キャンパス1階エントランスホール
担当教員：川合健太、他（予定）

※事前申し込みは不要です。参加希望者は時間内に直接会場へお越しください。また、日程・会場が変更となる場合がありますので、サイバーキャンパスで事前に確認してください。

空間演出デザインコース 特別講義2015



空デ特別講義 2015 第3弾では空デIII-1「空間構想・エスキス」（東京）をご担当いただいている建築家の大野力先生（sinato）に「空間演出デザインの今」についてお話いただきます。ミラノサローネ 2013に出展し話題をさらった『In fuse』（写真）をはじめとして、これまでのお仕事から今後の展望まで、空デの皆さんにプロフェッショナルの現場を感じていただける講義となるでしょう。
他コースの方、一般の方、どなたでもご参加いただけます。事前申し込みは不要ですので皆さん奮ってご参加ください。

日時：2016年2月14日（日）18：00～19：30
会場：東京外苑キャンパス106教室

2015年度卒業制作 最終審査聴講

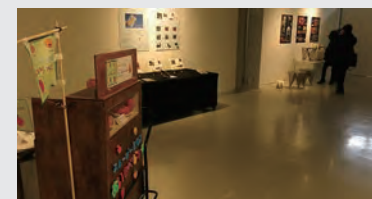


2014年度の京都での最終審査の一コマ

「卒業制作6」で開催される最終審査は在校生（休学生含む）が聴講出来ます。来年度に卒業制作に着手予定の方は参考になると思いますので、是非聴講ください。事前の申し込みは不要ですが、審査中の入退室はできませんので、開始時間までに各教室へ集合してください。

日時：2016年1月24日（日）
12：30 開始（開始時間の10分前にお集まりください）
会場：京都 人間館NA棟／東京 外苑キャンパス
※教室については当日の掲示を確認ください

2015年度卒業・修了制作展



2014年度の卒業制作展から

2015年度卒業・修了制作展（通信教育課程）が以下の日程で開催されます。詳細については、2/25発行予定の『雲母』3・4月合併号、およびサイバーキャンパスにて確認してください。

日時：2016年3月13日（日）～3月20日（日）
11：00～18：00（最終日は17：00まで）
会場：瓜生山キャンパス ギャラリー・オーブ、芸術館、人間館NA棟

編集室から



パッチリとカメラ目線（笑）

●今回の表紙は、江戸東京たてもの園内を散策中の川合先生、春日部先生、そして芸術教養学科の野村先生です。赤い屋根に白い壁が印象的な「デ・ランデ邸」を見学した後のようで、楽しい笑顔です。
●2016年度の学籍更新の受付期間が2016年1月20日（水）必着となっています。来年度も引き続き学習される方は手続き不要ですが、来年度休学される方、休学中の方で来年度復学される方は手続きが必要となりますので、忘れずに手続きをしてください。
●2009年12月。今は無き東京人形町サテライトキャンパスで初めて配付したのが「Kurara」の初回号でした。ということで不定期発行だった自主制作版を含めて6周年となりました。（パチパチ）みなさんに楽しく読んで頂けるような紙面づくりに精進していきたいと思いますので、これからもよろしく願いいたします。

もてなし時間



心地よい空間

些末なことからゲストハウスをオープンすることになった。

部屋は床の間を設えた和室と洋室がひとつになった大きめの部屋とシングルベッドとライティングビューローのある一人用の洋室の二種類。ゲスト専用のダイニングルーム、バス、トイレ、キッチンがあり、調理もできる。

企画の段階で施設を整え、食品衛生責任者の講習を受けるなど基本的な準備をした。リーフレット、名刺、ウェーブなど外向けのグラフィックマテリアル、受付カード、利用規則、そしてレンジやウォシュレットの設備利用説明書も日本語と英語で揃えた。

さて「入れ物」という形はできたものの快適さといった感覚的な要素はどうだろう。ゲストに満足いただけるだろうか。オリジナリティは演出できているかと思案する。

初めてのゲストはドイツ人の男性、その後、数組の海外・日本の方が滞在された。シーツの交換は不要、ジャグジーのバスタブには浸からずシャワーだけとゲストの行動はそれぞれだ。ゲストの希望で和か洋の食事を朝と夕

に用意する。先日滞在されたオーストラリアの女性は食事と部屋が大変気に入り二週間も延泊された。食事は揚げ物以外の日本食でと求められ、野菜の炊き合わせ、さかな焼き物、蒸し物など毎日同じものが重ならないように献立を考え、目でも楽しめるように数個の磁器に盛り付け、漆の長角敷膳に載せ供した。

細かく多岐に渡る要求に真摯に向かい合い、ひとつひとつできる限り丁寧に対応していく、それが当ゲストハウスのおもてなしと心得る。

空デでは、かの招致委員会よりも早く「おもてなし」という言葉で空間を捉えて指導いただいた。在学の四年間で学んだ「心地よい空間」の精神はここで息づいているだろうか。

文・写真
二〇〇九年度卒業生 新津 正己